



高速バスの存続は

A 可能性は非常に厳しい

安部誠也議員
「飯南の危機」という報道によると、尾道松江線開通に合わせ、来年度から路線バス3社が国道54号を運行しない方針を固めた。町の説明がまったくないので町民の不安が高まっているが、交通手段の確保は大丈夫か。行政報告で「継続は費用対効果から厳しい」とのことだが、その真意は。

山崎英樹町長

松江出雲・広島間を国道54号で結ぶことは困難な状況にあり、町が乗り継ぎを考えるしかない。広島方面へは備北交通を軸に、三次までの便を協議検討している。松江、出雲方面へは、高速道の吉田バス停への接続を町営で検討している。町民はもちろん、来町者の交通手段も確保しなくてはならない。

地域に飛び出す公務員を応援する首長連合に加入は

A 考えていない

安部議員

先日、「緑の分権改革」あるものを生かす地域力創造」の著者である椎川自治財政局長が来町され講演いただいた。椎川氏が強調する公務員参加型地域おこしが必要だと考えるが。

また、地域に飛び出す公務員を応援する首長連合に加入する考えは。昨年度、緑の分権改革推進事業としてEV車を導入したが、町民の利用状況は。

今年度、小水力発電導入促進モデル事業が新規事業として盛り込まれたが、関係機関とどのように取り組むのか。

山崎町長

公務員参加型の地域おこしは、職員も一町民として事務局的な役割を担うよう努力している。職員の地区担当制は形骸化しており、地域と一体となった活動ができるよう

な形にしていく。

公務員を応援する首長連合への加入は考えていない。

EV車は来町者や町民に貸し出す考えだったが、法的課題があり時間を要している。今年度は小水力発電の調査を行う。候補地の選定など、調査し、緑の分権に関する研究会などと協議する。

NHKラジオ中継局を

A TV中継所で

安部議員

昨年12月、NHKラジオ放送の受信環境整備についての一般質問に、町長は「新たに飯南町情報化を推進する検討会議を設け、研究、検討する」と答弁した。

中波だけでなく町民が安心して暮らせるために、夜でも快適に受信できるように、まずは比較的周波数が余っているFMの中継局を町内に新設すべきだ。

山崎町長

FM放送であれば、頼原・来島・赤名のTV中継所を使用できる。その場合、費用負担は発生するが、前回からの課題であり、今後、検討会議で研究していただく。



導入されたEV車

一般質問

町政を問う

6月定例会

お人よし行政に終止符を

A 本質を見きわめながら

人よし行政」に終止符を打ち、町政を仕切り直すべきだ。

山崎英樹町長

私はその時々、あるいはまたその案件案件で、必要な措置を取りながら対応し行動して来た。指摘は真摯に受けとめ、本質を見きわめながら物事に当たっていく。

飯南ブランドで一点突破を

A 少しずつだが前進している

石原議員

私は「最大の福祉政策は産業振興にある」という観点に立ち、産業発展のチャンスメーカーを自覚し議員活動を展開してきた。

その結果、本町は飯南ブランドで十分に勝負できるという結論に至っているが、現実には、例えば本町産牛肉のブランドは奥出雲和牛だ。



町の戦略として、飯南ブランドで一点突破すべきだが何故できないのか。

山崎町長

本町を丸ごと飯南ブランドとし、産業を振興しまちづくりを進め、町外へアピールしながら活性化を図っており、少しずつだが前進していると思う。

庁舎建設は町長選挙で審判を

A 今の任期中に道筋をつける

石原議員

私は主に次の理由で庁舎建設に反対している。

- 1、町民の富を直接に生まない庁舎建設より、町内経済を直接潤す産業振興や公共事業に力を尽くすべきだ。
- 2、庁舎という物より、職員のやる気という心で、まちづくりに向かうのが本筋。
- 3、遊休施設や既存施設の廃止・改修・建てかえなどを無視して新庁舎を建設するのは言語道断だ。

町長がなんととしても庁舎建設したいなら、町政座談会で説明を行うのではなく、町長選挙で信任を得るべきだ。

町長が今定例会最終日に辞表を出すと、50日以内に選挙となるが、山崎町長が立候補し再選される。

れば、堂々と新庁舎建設に向かうことができる。飯南町の将来に禍根を残すことになりかねない庁舎建設は、選挙によって新たなリーダーにゆだねるべきだ。

山崎町長

町長選挙で庁舎建設を問うという手法はあると思うが、合併協議会の会長だった責任上、今の任期中に私の手で道筋をつけたいと昨年度から提案している。

庁舎として使える適当な既存物件はなく、合併特例債の期限を考えると本年度に決定し準備を進める必要がある。

今回見送ると、この先庁舎建設はないと思うので、どうしても新たに建設したい。

●この外に、石原議員から副町長に対し次の質問がありました。
◆山崎町長の一番の理解者として綱紀粛正に努めていたなら今日のような課題山積に至ってはいなかったとして、また、就任に当たっての抱負を振り返っての感想とともに、飯南町のまちづくりに精励する覚悟を質した。



飯南ブランドを示すサイン